

現代史プリント(E-20) 超大国アメリカの動揺(2)

ベトナム戦争反戦運動の高まり

NHKスペシャル【映像の世紀9ベトナムの衝撃】をもとに

VII. 戦争の泥沼化と反戦運動

ベトナムではアメリカが圧倒的な物量を投入したにもかかわらず[1]にひそむ解放戦線側の[2]戦に苦戦を強いられ、アメリカ兵は3_____られていた。

アメリカ兵は4_____状態と感じ、解放戦線側とみなした村で、5_____という行為もおこなった。

戦争のようすは[6]で茶の間に届けられた。

CBSの依頼で取材された[7]のようすは北爆が[8]以外にも加えられ[9]も犠牲になっていることを示した。

アメリカ人の中には戦争の意味を問い[10]するなど戦争に荷担したくないという人々が増えてきた。

1967年の反戦集会には[11]も参加、反戦の意志を明確にしていった。

10月には運動はピークに達し、ワシントンでは32時間にわたって[12]と衝突した。この運動は世界に広がり、この10月21日は[13]とされるようになった。

VIII. 戦局の変化とアメリカの動揺

戦局を楽観視していたアメリカに衝撃を与えたのは1968年1月の[14]であった。

解放戦線は南ベトナム各地で蜂起し、首都サイゴンでは[15]が6時間にわたり占拠され、古都フエでは25日間激戦がつづくなど「アメリカ優勢」という事に人々は疑問をもった。

政府高官が路上で解放戦線側の[16]を射殺する光景が放送され、正義の戦争なのかという疑問を深めた。

この攻勢をきっかけに米大統領[17]の信頼は揺らぎはじめた。

大統領選挙でも最大の争点は[18]であり、[19]候補は反戦を説き大きな支持を得るなど与党民主党は分裂状態となった。

1968年3月31日[20]大統領は[21]とともに、_____を表明した。

この4日後[22]が白人青年に、6月5日[23]が暗殺された。

1968年8月[24]で開催された[25]大会は戦争反対を求めるデモ隊に警官隊が襲いかかり、[26]と呼ばれるような凄惨な状況となった。

他方、共和党は、法と秩序の回復、27_____をとく[28]を候補にえらび、大統領選挙で民主党候補を破った。

IX. ベトナム戦争とウッドストック、アポロ11号

1968年末には米兵の死者は[29]人をこえ、[30]万人をこえる兵士がベトナムに駐留していた。

ニクソンにとっての課題は、いかに31_____であった。→かれがめざしたのは米兵の役割を[32]に肩代わりさせることであった。こうして1969年8月には25000人が撤退を開始し始めた。

1969年8月 ニューヨーク郊外の[33]でロック＝コンサートが開催され、30万人を越える若者が集まり、新しい価値観の登場を示した。

この年7月[34]号はついに人類初の[35]を実現させた

10月15日には[36]万人が参加する戦死者を弔う反戦デモも発生した。

これにたいし、ニクソンは自分を支持する[37]へ呼びかけ、ニューヨークでは[38]層を中心とするニクソン支持派のデモ隊が反戦派と衝突した。

このようにアメリカ社会には亀裂が広がっていった。

1970年5月北ベトナムの攻勢に対して、アメリカは北ベトナムの補給基地と考えた[39]を攻撃、戦争は[40]全域に拡大した。

X. エピローグ

1974年8月 [41]大統領は民主党本部盗聴事件の[42]事件の責任をとって辞任した。

そのころ、南ベトナム政府は崩壊の道を歩み、[43]年4月26日、北ベトナム軍は[44]への総攻撃を実施、ついに4月30日[45]政権は崩壊、アメリカのベトナム政策は完全に失敗に終わった。

その後、アメリカとベトナムの国交回復はその後[46]年の歳月を要した。